

[例解] 現代レトリック事典

メタファー

メトニミー

擬人法

オノマトペ

倒置法

置換法

対句法

引喩

否定表現法

感嘆法

アイロニー

パロディー

瀬戸賢一
宮畑一範
小倉雅明 [編著]

●A5判・上製・函入・612頁
定価8,800円(税込)

人にアピールし、説得するのに、どんなレトリックのメカニズムが働いているのか。

生气あふれる実例を挙げ、多彩な言語表現のありようを

72のレトリックの技法を手がかりに認知科学の知見も駆使して解明する。

レトリック研究の成果を集大成し、日本語の可能性を広げる事典。

本事典の特色

- ❖「意味の《あや》」「形式の《あや》」「思考の《あや》」の3部構成
- ❖古典や現代文学、ノンフィクション、漫画などバラエティに富んだ実例
- ❖図解約90点、イラスト・写真など約90点を収録

より深い読解、より効果的な発信に

SNSで話題!!

[例解] 現代レトリック事典

瀬戸賢一・宮畑一範・小倉雅明 | 編著

258

倒置法 (inversion, hyperbaton)

▶一文の語句の配列を通常とは逆にすることで際立ちをあたえる技法。

【出た出た 月が】

(文部省唱歌「月が」)

配列の逆転には、通常あとにくる要素を前置する場合と、先にくる要素を後置する場合があります。前置は情報をより早く提示することで目立たせて印象づける。後置は通常の配列ではあるべき(または、あると期待される)情報の欠けを後続ですぐ埋めることで、内容を補完すると同時に補完した情報を印象づける効果がえられる。代表例では「月が」が後置されて、「出た」のがなにかに際立ちがあたえられます。「炭坑節」の歌いだし「月が出た出た」と比較してください。「出た出た 月が」は「丸い丸い まん丸い 盆のような月が」と続き、出た月の様がそう引きたちます。

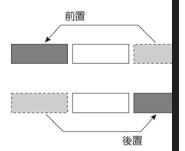


図1 倒置法 前置と後置の仕組み

解説

倒置法というのは、簡単にいえば、一文のなかの意味のまとまりをなす要素をそのまま、通常の配列とは逆にする技法です。

日本語の基本的な文要素は「いつ・どこで・だれが・なにを・どうする」の順に並びます。これに「なぜ」「どのように」などが加わることもある。これらの標準的な配列を操作します。さまざまな要素が前置または後置されてどのような効果をおよぼすか、具体例でみましょう。

●主述の逆転——日本語では「(私は)とてもうれしい」のように、自明の主語はふつう省略されるので、なくても「欠け」感はあるのですが、主部と述部の逆転は倒置でよくあるパターン。結婚してまだ3年。近くに用事があったので、実家に寄ろうとしたところ、筆者は完全に面食

らってしまいます。

だって、ないのである。昔、目印にしたお店や家が。あるのである、なかった。だのアパートだの、やたら小さな建売が。

(新井素子「迷子の言い訳は「散歩

「ない」「ある」に対して「なにが」は文法に必須の要素です。いきなり「ない」「ある」といわれると「なにが」なのかわからない。それを倒置することで際立たせ、さらにこの例では、ないものもあるもの対比が大きく変わった町並みを印象づけます。

●その他の必須要素の逆転——「…を」「…や引用の「…」も倒置の対象になります。主人公は事件の目撃者として証言したこと、一躍有名になりました。しかし、日々経たれども自分に興味をもってくれません。

▲紙面見本(60%縮小)

大修館書店 ☎03-3868-2651(販売部) <https://www.taishukan.co.jp/>

試し読みができる! 詳しい情報はこちら▶

